

同窓会会長挨拶



双樹会会長 米田 純子

同窓生の皆様におかれましてはお元気で活躍のことと存じます。

日頃は母校への思いや同窓生同士のお付き合いなどから同窓会への関心をお持ち頂き厚くお礼を申し上げます。本年3月には未曾有の「東日本大震災」が発生しました。関係者の皆様には心からお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早く復興されることを祈念いたします。

同窓会も保健学科発足後の卒業生1,300人、それを迎えた同窓生数（双樹会会員）もあわせて4,000人弱、大きな力強い同窓会組織となりました。保健学科は、「医療」、「研究」、「教育・研修」の各分野において、輝かしい活躍、実績を残しておられます。このことは、母校のますますの発展を意味しており、本当に誇らしく喜ばしいことだと思っています。

保健学科と学術交流協定を結んでいる大学は、アメリカ合衆国のテキサス大学ヒューストン健康科学センター看護学部、バージニア大学看護学部、タイのチェンマイ大学、マヒドン大学看護学部、マヒドン大学検査技術学科、オーストラリアのニューカッスル大学、韓国の梨花女子大学。その結果、同窓生が日本国内をはじめ海外でもさまざまところで活躍をされています。

そのような発展をなした陰には、元保健学科長（山口大学副学長）塚原先生の存在意義は大変大きなものでした。

その塚原先生が今年の4月15日にご逝去されました。先生は、今年の国民的合言葉である「絆」をととても大切にされた先生で、教職員・学生との間で皆が一致団結し、大学院の設置と国際化に多大の貢献をされました。その結果、毎年学位を取得した学生が社会へと巣立っておられ、同窓会もますます力強い組織となっております。塚原先生の恩に報いるためにも、我々は頑張らねばと心に強く思っております。

山口大学は2015年に、本学の前身である山口講堂の設立から200周年という節目を迎えます。現在、“創立200周年を超え2020年にキラリと光る大学”としての山口大学の目指すべき方向について、大学の将来像が検討されていますし、200周年記念行事の準備も着々と進められています。その輝かしい記念式典を塚原先生にお見せできないのが非常に残念です。

創立200周年というこの機に同窓会も大学当局と協力しながらひとつの節目を迎えたいと思います。母校および同窓会への関心をさらに深めていただき、今後の同窓会組織にご協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。同窓会といたしましても、同窓会の活動が同窓生の皆様にとって常にお役に立つように努力をしております。しかしまだまだ十分とはいえません。同窓生が互いに交流を深めていき、同窓生同士の互助活動がスムーズに運んでいきますよう今後とも努力をしてみたいと思いますが、皆様からの近況情報もぜひ頂き、同窓会活動活性化につなげていきたいと考えております。同窓生の皆様に変動等ありましたら、事務局にお知らせくださいますようお願い申し上げます。

同窓生の皆様には重ねてこの場をお借りし、山口大学発展のために今後ともご助力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様の今後のますますのご発展とご健康を祈念しております。

平成23年11月